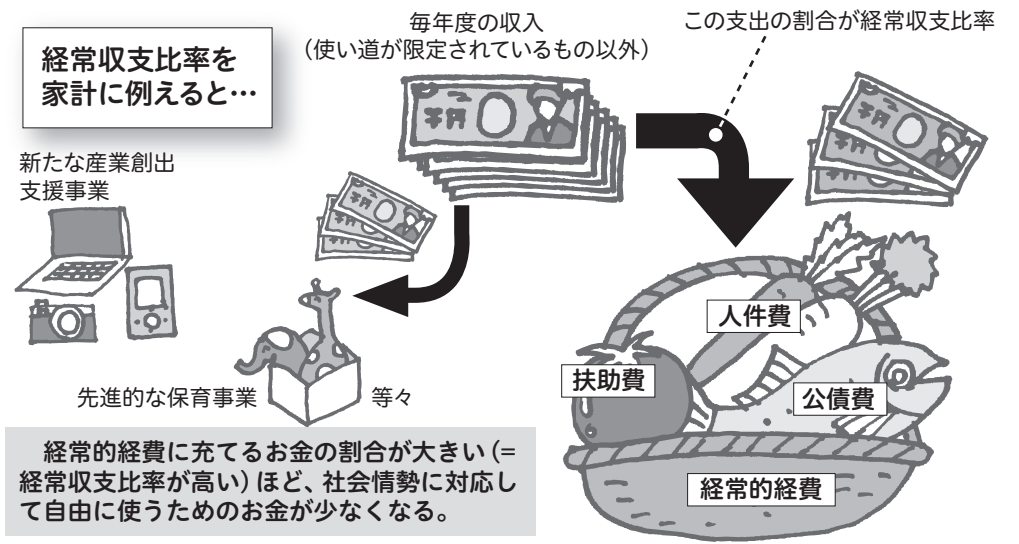


「財政構造の弾力性」って何？

地方公共団体では、人件費（給料）、扶助費（社会保障）や公債費（借金返済）など毎年度必ず支出する経常的なお金と、その時々で社会情勢に対応した施策のために支出する臨時的なお金の両方が必要です。財政構造の弾力性とは、社会情勢に応じた施策に必要となるお金をどれほど用意できるかという「お金の使い道の融通性」のことで、自由に使えるお金が少ないほど、財政構造の弾力性がないということになるのです。

財政構造の弾力性の指標 「経常収支比率」

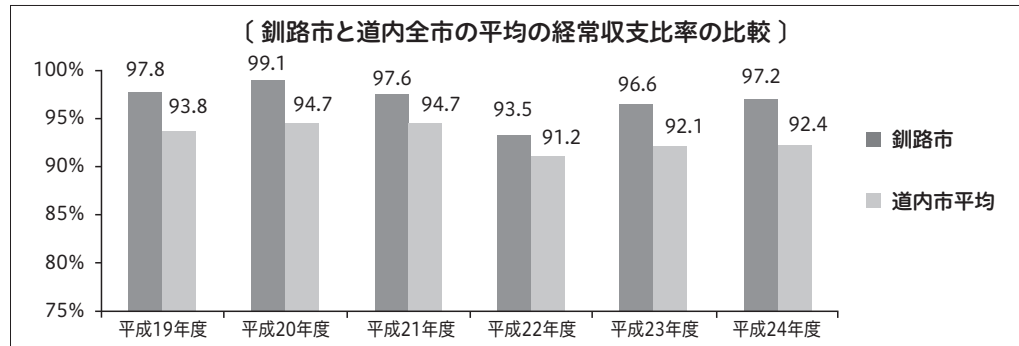
財政構造の弾力性を測るための指標として、「経常収支比率」があります。これは、市民税や固定資産税、普通交付税といった使い道が限定されていない毎年度の収入の中で、毎年度必ず支出しなければならない経常的経費に充てられたものが占める割合を示したものです。家計に例えるならば、エンゲル係数（家計に占める食費の割合）に似ています。経常収支比率が高いほど、財政構造の弾力性がないことを示しており、言い換えると、社会情勢に対応して自由に使えるお金が少ないということになります。



釧路市の経常収支比率

釧路市の経常収支比率は、右表のとおり、道内の全市の平均を長期にわたって上回っており、財政構造の弾力性が比較的低い状態が続いていることが分かります。

したがって、今後とも経常的経費の抑制を図るなどして、弾力性の確保に努めていく必要があります。



財政の豆知識



今月号では、財政構造の弾力性がどのような状況になっていくかについてご説明します。



問合先
市役所財政課 (☎31-4512)